

① 鹿嶋くんが「折り紙」に夢中になった理由は？



折り紙中学生

鹿嶋 洋邦君
かしま ひろくに

NIエワークシート／小学校、中学校／図工、美術、朝NIエ

かぎ爪で威圧するトラゴン、羽はたき出しそくな鳥、折り目で弦を表現したギター。細部までこだわり抜いた完成度が、見る人を驚かせる。はさみやのりは使わず、折り方を工夫することで、独創的な作品を次々と生み出している。

「たった一枚の紙で、自分の好きな形を何でも作り出せる」

その魅力にはまったのは小学2年の時。伊丹市昆虫館で、虫の折り方を解説した本に出会った。紙2枚を使って折り、足と上半身を組み合わせると、カブトムシやカナブンが出来上がる。「こんな物も折れるのか」。楽しんで、次から次へと複雑な作品に挑戦した。

中学生になると、本な

紙1枚から広がる世界

どに載っている折り方に飽き足らなくなり、「自分にしかできない作品を折ってみたい」と考えるようになった。

題材が決まるとまず、最も表現したい部分の折り方を考え、それから全体の構想を練るという。他の折り紙作家の著作も参考にしながら、紙を手にして試行錯誤を重ねる。多くは1週間から10日で仕上げる。オリジナル作品はすでに約20種類を数える。

昨年末から、一枚の紙で完結する折り方を考えるようになった。細部を表現するための角は四つしかない。どの角をどの部分に使うのかだけでなく、全体のバランスも考慮しながら、パズルを完成させるように脳裏に思い浮かべる。

今後は、人物や天使、悪魔などを題材にした大

② 「折り紙中学生」として鹿嶋君は地元で有名です。記事を読んで、あなたは、どんなところが「すごいなあ」と思いますか。線を引きましょう。

名前)

質感まで表す大作目標

ひと探訪

作に挑戦するつもりだ。「髪の毛や布の質感まで表現したプロ作家の作品もある。いつかはそんな作品を折ってみたい」14歳。伊丹市在住。

記事・太中 麻美
写真・笠原 次郎

(横顔)
腕前は広く知れ渡り、市のイベントなどでは折り方を教えるコーナーも。複雑な部分は手を貸して丁寧に説明し、子どもたちの人気者だ。学校の文化祭では「友達が「名人」と書いた紙を貼ったりして、少し照れくさかった」とか。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

あなた自身や、家族、友達にも「〇〇名人」はいませんか？ 次の()内に、名前や得意なことを書いてみましょう。

()は、()名人です。

理由は()